

篠崎中学校だより



文責：北九州市立篠崎中学校校長 青木哲也

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

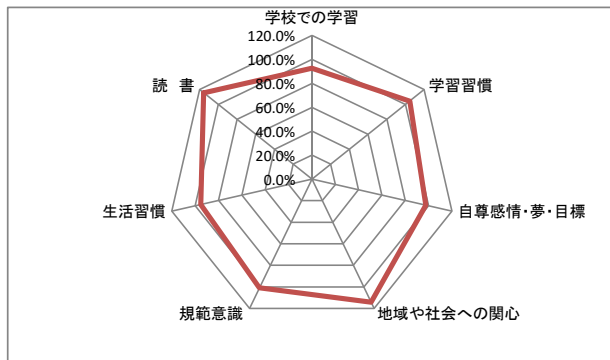
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	「読むこと」に関する問題は全国平均を上回っているが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する問題を苦手とする生徒が多い。	上回っている
数学	数と式の比較的難易度の高い、数学的な見方や考え方に関する問題の正答率が全国平均を上回っている。一方、資料の活用の身に付けておくべき基本的な知識の問題では、解答できる数量や図形などについての知識・理解が、また、数学的な技能の問題では、全国平均を下回っている。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・「話し合う活動」を積極的に取り入れ、生徒が自分の意見を発表することができ、さらにICT機器を有効的に活用する「授業づくり」、またそれを確かめ合うことができる「学級づくり」に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学習面では、「篠中ノート」やタブレットを活用した家庭学習の定着の取組、生活面では、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守ることの重要性を育むための取組を実施する。